

授業科目等の概要

(工業専門課程建築学科) 令和6年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○		生き方講座Ⅰ	学生が自らの人生をどう豊かにするか、そのためにはどのような職場でどんな仕事に就くのか、それに必要な力をつける学び方について、しっかり考え行動できる力を育成する。	1 前	32	1			○	○				
2	○		生き方講座Ⅱ	学生が自らの人生をどう豊かにするか、そのためにはどのような職場でどんな仕事に就くのか、それに必要な力をつける学び方について、しっかり考え行動できる力を育成する。	1 後	32	1			○	○				
3	○		生き方講座Ⅲ	学生が自らの人生をどう豊かにするか、そのためにはどのような職場でどんな仕事に就くのか、それに必要な力をつける学び方について、しっかり考え行動できる力を育成する。	1 前	32	1			○	○				
4	○		生き方講座Ⅳ	学生が自らの人生をどう豊かにするか、そのためにはどのような職場でどんな仕事に就くのか、それに必要な力をつける学び方について、しっかり考え行動できる力を育成する。	2 後	32	1			○	○				
5	○		文章技術	明快で論理的な「レポート」「実習報告書」等の作成能力を育成すると共に、論理的な思考を養う。	1 後	32	2	○			○				
6	○		コンピュータ実習Ⅰ	構造力学など工学的な計算を行うためには、関数電卓は必須のものとなっているため、関数電卓の必要最低限の使用法について熟知させる。コンピュータ(Windows・Word)の基本的な使用法を習得する。	1 前	32	1			○	○				
7	○		コンピュータ実習Ⅱ	構造力学など工学的な計算を行うためには、関数電卓は必須のものとなっているため、関数電卓の必要最低限の使用法について熟知させる。コンピュータ(Windows・Word)の基本的な使用法を習得する。	1 後	32	1			○	○				
8	○		建築史Ⅰ	建築が過去においてどの様に考えられ、発達してきたか、その歴史の変遷の流れを正しく理解させ、今日のそして明日の建築を考え創造していく上に必要な基礎的教養を得させる。建築とは何か、どう建てるべきか、どういう建築がいいのか、など、建築家としての批判精神と判断力と表現力。	1 前	32	2	○			○				
9	○		建築史Ⅱ	建築が過去においてどの様に考えられ、発達してきたか、その歴史の変遷の流れを正しく理解させ、今日のそして明日の建築を考え創造していく上に必要な基礎的教養を得させる。建築とは何か、どう建てるべきか、どういう建築がいいのか、など、建築家としての批判精神と判断力と表現力。	1 後	32	2	○			○				
10	○		建築計画Ⅰ	建築を学ぶ学生に、建築学の中における建築計画という科目の位置づけを把握させ、又、それをいかに活用すると良いかを講述するものである。建築計画という科目は性格上、単一の科目として講述することが難しいため、あえて他の建築学の科目の様々なエッセンスを取り入れながら講義を進めてゆくものとする。	1 前	32	2	○			○				
11	○		建築計画Ⅱ	建築を学ぶ学生に、建築学の中における建築計画という科目の位置づけを把握させ、又、それをいかに活用すると良いかを講述するものである。建築計画という科目は性格上、単一の科目として講述することが難しいため、あえて他の建築学の科目の様々なエッセンスを取り入れながら講義を進めてゆくものとする。	1 後	32	2	○			○				

12	○		環境工学 I	建築空間を快適で健康的なものにするため、屋外環境、屋内環境の基礎を学ぶ。環境工学 I では、屋外の熱環境、屋内の湿気について身近な実例を交えながら学習する。	1 前	32	2	○			○								
13	○		環境工学 II	建築空間を快適で健康的なものにするため、屋外環境、屋内環境の基礎を学ぶ。環境工学 I では、屋外の熱環境、屋内の湿気について身近な実例を交えながら学習する。	1 後	32	2	○			○								
14	○		建築設備 I	給排水・衛生・給湯・浄化槽・消火設備・空気調和等の基礎・応用及びそのシステム・工法を学ぶ。	2 前	32	2	○			○								
15	○		建築設備 II	給排水・衛生・給湯・浄化槽・消火設備・空気調和等の基礎・応用及びそのシステム・工法を学ぶ。	2 後	32	2	○			○								
16	○		建築法規 I	法規はたえず改正されるものであり、常に最新のものを追いかねなければならない。したがって、建築法規の授業では建築士試験にも持ち込み可能な「基本建築関係法令集」を教科書として用い、実際に条文を読むことにより辞書を引くように法令集に慣れ、自分で解釈する能力を身につけることを目的とする。また、「建築法規用教材」を副読本に用い、難解な法令集の条文を図解で理解を深める。	1 前	32	2	○			○								
17	○		建築法規 II	法規はたえず改正されるものであり、常に最新のものを追いかねなければならない。したがって、建築法規の授業では建築士試験にも持ち込み可能な「基本建築関係法令集」を教科書として用い、実際に条文を読むことにより辞書を引くように法令集に慣れ、自分で解釈する能力を身につけることを目的とする。また、「建築法規用教材」を副読本に用い、難解な法令集の条文を図解で理解を深める。	1 後	32	2	○			○								
18	○		建築法規 III	法規はたえず改正されるものであり、常に最新のものを追いかねなければならない。したがって、建築法規の授業では建築士試験にも持ち込み可能な「基本建築関係法令集」を教科書として用い、実際に条文を読むことにより辞書を引くように法令集に慣れ、自分で解釈する能力を身につけることを目的とする。また、「建築法規用教材」を副読本に用い、難解な法令集の条文を図解で理解を深める。	2 前	32	2	○			○								
19	○		建築法規 IV	法規はたえず改正されるものであり、常に最新のものを追いかねなければならない。したがって、建築法規の授業では建築士試験にも持ち込み可能な「基本建築関係法令集」を教科書として用い、実際に条文を読むことにより辞書を引くように法令集に慣れ、自分で解釈する能力を身につけることを目的とする。また、「建築法規用教材」を副読本に用い、難解な法令集の条文を図解で理解を深める。	2 後	32	2	○			○								
20	○		構造力学 I	建築構造設計における構造力学の役割を明らかにし、静力学の基礎的知識とその計算方法の修得を目的とする。	1 前	32	2	○			○								
21	○		構造力学 II	建築構造設計における構造力学の役割を明らかにし、静力学の基礎的知識とその計算方法の修得を目的とする。	1 後	32	2	○			○								
22	○		構造力学 III	構造力学は建築構造の基礎となるものであり、その知識を充分習得できるよう指導する。構造力学は、鋼構造や鉄筋コンクリート構造と同じ内容となる部分も多く、両科目を有効的に活用して、より知識の習得ができるよう考慮する。	2 前	32	2	○			○								
23	○		構造力学 IV	構造力学は建築構造の基礎となるものであり、その知識を充分習得できるよう指導する。構造力学は、鋼構造や鉄筋コンクリート構造と同じ内容となる部分も多く、両科目を有効的に活用して、より知識の習得ができるよう考慮する。	2 後	32	2	○			○								
24	○		木質構造 I	木構造の建築物に働く種々の力、各種建築材料の特性などを理解させると共に、木構造建築物の構造を理解させ、実際に活用できる構造図作成の能力を養う。	1 前	32	2	○			○								○

39	○		建築材料実験Ⅱ	技術の基本を理解するには、基礎知識だけでは十分とは言えず、その裏付となる実験は絶対に必要である。この授業では、金属材料及びコンクリート材料の性質を調べる基本的な実験を行い、材料の性質に関する基礎知識を体験的に学習する。また、この実習を通して実験の心構え、機器の取り扱い、データのまとめ方やレポートの書き方を身に付けさせる。	2後	32	1			○	○				
40	○		建築測量実習Ⅰ	建築士としてやり方に必要な水準測量及び多角測量の技能を修得する。	1前	32	1			○	○				
41	○		建築測量実習Ⅱ	建築士としてやり方に必要な水準測量及び多角測量の技能を修得する。	1後	32	1			○	○				
42	○		建築CADⅠ	AutoCADの操作方法を学びながら、CADとはどんなものか、同時に、建築CAD図の描き方を習得し、建築デザインの素養を身につける。CADコマンドの習得、CADの周辺機器についての知識、CAD図面の扱い方、建築業界でのCADの位置づけ等を学ぶ。	1前	64	3	△		○	○				
43	○		建築CADⅡ	AutoCADの操作方法を学びながら、CADとはどんなものか、同時に、建築CAD図の描き方を習得し、建築デザインの素養を身につける。CADコマンドの習得、CADの周辺機器についての知識、CAD図面の扱い方、建築業界でのCADの位置づけ等を学ぶ。	1後	64	3	△		○	○				
44		○	CAD設計Ⅰ	JW_CAD for Windowsの習得。	2前	64	3	△		○	○				
45		○	CAD設計Ⅱ	JW_CAD for Windowsの習得。	2後	64	3	△		○	○				
46		○	建築デザイン・パースⅠ	色の基本と絵具による混色を理解し、パーステクニックを練習していく。透明水彩絵具に慣れ、溝引き、配色の経験を重ねる事によって、簡単な着彩パースを描く力をつける事を目標とする。	1前	32	1			○	○				
47		○	建築デザイン・パースⅡ	色の基本と絵具による混色を理解し、パーステクニックを練習していく。透明水彩絵具に慣れ、溝引き、配色の経験を重ねる事によって、簡単な着彩パースを描く力をつける事を目標とする。	1後	32	1			○	○				
48		○	インテリアデザイン学Ⅰ	住まい人の趣味・嗜好等の要望に応えるために、インテリアに必要な基本的な要素を学習しながら、インテリアとは何かについて学んでいく。	2前	32	2	○			○				
49		○	インテリアデザイン学Ⅱ	住まい人の趣味・嗜好等の要望に応えるために、インテリアに必要な基本的な要素を学習しながら、インテリアとは何かについて学んでいく。	2後	32	2	○			○				
50		○	インターシブ	住まい人の趣味・嗜好等の要望に応えるために、インテリアに必要な基本的な要素を学習しながら、インテリアとは何かについて学んでいく。	2後	64	2			○	○				○
合計					50	科目	2016	単位時間	100	単位					

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： 所定の修業年限以上在学し、卒業に必要な単位数を修得した者		1学年の学期区分	2期
履修方法： 学科・クラス毎に定められた時間割に則って履修する。		1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。